

### 平成30年度 全国・学力・学習状況調査結果について

本年度4月17日（火）に、全国学力・学習状況調査が全国の小中学校対象に行われ、本校3年生も参加しました。先日、その調査結果が届きました。

今回の調査結果を、全国・愛知の調査結果と比較分析し、まとめました。この結果は、本校の教育活動の改善に生かしていきたいと考えています。今後も、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

#### I 教科学力（国A・国B・数A・数B・理）、教科指導（生徒質問紙）の調査結果から

##### 1 国語

主として知識を問う A 問題では、多くの問題で全国平均と同等の正答率であった。「古文と現代語訳とを対応させて内容を捉える」問題や「文脈に即して漢字を正しく読む」問題については、全国平均に比べよくできていた。「場面の展開や登場人物の描写に注意して読み、内容を理解する」問題や「語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う」問題では、全国平均を下回った。

主として活用能力をみる B 問題では、全ての問題において全国・愛知の平均を若干下回った。「質問の意図を捉える」問題については、全国平均に比べよくできていたが、「文章の構成や展開について自分の考えを持つ」問題や「全体と部分との関係に注意して相手の反応を踏まえながら話す」問題は、全国平均を下回った。

このような結果を踏まえ、今後の学習の中で文章から必要な情報を読み取る活動に力を注ぎたい。また、事実から判断した考えをもたせたり、それを周囲に発信するなど、根拠を明らかにして話したり書いたりする活動についても充実させていきたい。

##### 2 数学

主として知識を問う A 問題では、「着目する必要がある数量を見だし、その数量に着目し、連立二元一次方程式をつくる」問題や「一次関数  $y = ax + b$  について  $x$  の値に伴う  $y$  の増加量を求める」問題など、「関数」の問題の多くについて、全国・愛知の平均を上回った。しかし、「反比例についてグラフと表を関連付けて理解している」問題については、全国・愛知の平均より低かった。また「図形」の問題については、「見取り図、投影図から空間図形を読み取る」問題や「半径を、その直径を軸として回転させると、球が構成されることを理解している」問題が全国平均を上回った。しかし、「絶対値の意味を理解している」や「指数を含む正の数と負の数の計算ができる」などの問題では、全国・愛知の平均を下回った。

主として活用能力をみる B 問題では、「事柄が成り立つ理由を構想を立てて説明する」「発展的に考え、条件を変えた場合について、証明の一部を書き直す」などの問題において、全国・愛知の平均を下回った。

数学の授業に関する意識（生徒質問紙）調査からは、「数学の勉強は大切だと思う」と答えている生徒の割合が全国・愛知の平均に比べ低かった。しかし、「数学の授業内容はよくわかる」と答えている生徒の割合は、全国・愛知の平均に比べ高かった。また、「数学の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか」という質問に対して、「考えない」と答える生徒の割合が高く、「数学の授業で学習したことは、将来、社会に出た時に役に立つと思いますか」という質問についても、「思わない」と答える生徒の割合が高かった。

このような結果を踏まえ、生徒の意欲を生かしつつ、問題解決の過程を大切に学習活動、生徒が問題の解き方を説明する活動、さらには学習と実生活が結びつくような場面を想起させる活動を今以上に取り入れ、学習が将来の生活に役立っていくという意識を持たせていきたい。

### 3 理科

本年度実施された理科では、「無脊椎動物と軟体動物の体のつくりの特徴に関する知識を活用できる」「神経系の働きについて知識を身に付けている」などの生物的領域の問題に対し、全国・愛知の平均に比べ高い正答率が得られた。しかし、「シミュレーションの結果について考察した内容を検討して改善し、台風の進路を決める条件を指摘できる」問題や「植物を入れた容器の中の湿度が高くなる蒸散以外の原因を指摘できる」問題など、物事を論理立てて解く問題については正答率が低かった。

理科の授業に関する意識（生徒質問紙）調査からは、「理科の勉強は大切だと思う」と答えている生徒の割合が全国・愛知の平均に比べ低かった。また、「理科の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか」という質問に対し「考えない」と答える生徒の割合が非常に高く、「理科の授業で学習したことは、将来、社会に出た時に役に立つと思いますか」という質問についても「思わない」と答える生徒の割合も高かった。また「理科の授業では、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てていますか」「理科の授業で、観察や実験の結果をもとに考察していますか」といった質問に対し当てはまらないと答える生徒が多かった。

このような結果を踏まえ、観察や実験の授業を充実させ、学習内容が生活に結びつくよう興味関心を高めていく指導に重点を置きたいと思う。

## II 学力向上・学校経営（生徒質問紙）に関する調査から

### 1 好ましい状況

- ・ 「学校の規則を守っていますか」との質問に対し90%以上の生徒が当てはまると回答した。日頃の家庭教育や生徒指導の成果により規範意識が育っているといえる。
- ・ 「いじめはどんな理由があってもいけないことだ」と考える生徒の割合が90%あり、人権意識の高さを感じられる。
- ・ 「人の役に立つ人間になりたい」と答えた生徒の割合が90%を超えていた。
- ・ 「地域社会などでボランティア活動に参加した」生徒の割合が全国・愛知の平均より高かった。昨年度の結果に比べ、ボランティアに参加する意識が高まってきた。

### 2 課題と今後必要と思われる対応

#### <生徒の生活面について>

- ・ 「自分にはよいところがない」と思う生徒の割合が高く、自己肯定感が低い。
- ・ 「将来の夢や目標を持っていない」生徒の割合が高い。キャリア教育の取り組みをさらに充実させていくことが必要である。
- ・ 「1・2年生の時に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか」という質問に対し、「そう思わない」と答えた生徒の割合が高い。学び合いの学習や主体的に課題を追究していく過程を大切に学習をさらに推し進めていきたい。
- ・ 「家で予習・復習やテスト勉強をしている」の割合が低く、塾などで学習している割合が高い。宿題についてはしっかり取り組んでいるので、自主学習に対して意欲を高めるようにさらに促していきたい。
- ・ テレビ・ビデオ・DVDを視聴したり、携帯・スマホのメールやTVゲームを行っている時間が全国平均に比べどれも高い。活用の仕方やモラルを高めるための取り組みをさらに積極的に行っていく必要があると考えられる。
- ・ 土日の学習時間で最も多いのが、1時間程度である。部活動があるとはいえ、もう少し学習に取り組む時間を確保するように促していきたい。

#### <教師の指導について>

- ・ 「授業の始めに目標が示されていたか」「授業の最後に学習内容を振り返る活動をよくしていたか」の割合が、全国平均を大きく下回っている。今年度も昨年度に引き続き、授業の目標を板書するなど、授業改善を図ってきたが、さらに生徒に授業の目標をもたせたり、振り返りをさせたりするなどして、学習内容の理解を進めていきたい。
- ・ 「1・2年時の授業で、自分の考えを発表する機会が与えられていた」と答えた生徒の割合が低かった。さらに自分の考えがみんなに発表できるような場を持った授業のあり方を考えていきたい。